

メダカの池 梅北に完成



都城のNPO

市内3カ所目 環境学ぶ場目指す

メダカが暮らせる豊かな自然環境づくりに取り組む都城市のNPO法人「都城メダカの学校」(永田勇作理事長)が同市梅北町の麓地区に作っていたメダカの池が完成し5日、記念のメダカ放流会を行った。同法人が市内で整備したメダカの池は、昨年6月にできた同市山田町万ヶ塚などに次いで3カ所目。

「ふもとふれあいメダカ池」と名付けられた池は、同法人会員の海田六男さん(63)が営む鶏料理店「ふれあいの里」の敷地内に設けられた。井戸水を使った約70坪の水路を地区住民と協力して作り、

水草などを植えた。

放流会は同法人の会員や地元住民、梅北小児童と梅北保育園児ら約40人が参加。同法人が育てたクロメダカ約200匹を子どもたちが放流した。同校6年の坂元祐太君(11)は「きれいな自然と水の中で大きくなったメダカをまた見に来たい」と笑顔。

池は私有地だが自由に見られるようになっていく。同地区在住の永田理事長(68)にとって、地元メダカの池を作ること目標の一つだったという。永田理事長は「地域の子どもたちが集まり環境について学ぶ場になってほしい。将来的にはホタルなどさまざまな自然の生き物が見られる場所にしたい」と話していた。

池の完成を記念しメダカを

昆虫や魚の命感じて

里山をフィールドに活動している写真家の今森光彦さん(61)は滋賀県大津市。滋賀県大津市で「今森光彦と学ぶ昆虫教室」を開催。9日、木城町の木城えほんの郷(黒木郁朝村長)であった。同所で開催中の今森さんの写真展に合わせて開いており、10年目。県内外から約100人が集まり、昆虫採集や自然体験を通して生命の不思議を体感した。

木城えほんの郷

同施設近くの小丸川支流・春山川では、子どもたちが虫捕り網を持って川の中へ。千葉県柏市の大沼里香さん(10)は「家の近くには人が入れる川がないので初めて入った。魚もいっぱい捕まえた」と目を輝かせた。

カブトムシやオニヤンマ、バッタ、チョウなど採集した昆虫は今森さんの助言を受けながら標本に。種類や色の違いを意

県内外100人「むしむし合宿」



虫捕り網を手に川に入り、虫や水生生物を探す子どもたち

識して採集したという神所大智君(12)は宮城県岩沼市。匹だけだと孤立感があるので仲間になるように探った。トンボの羽に凹凸があったけど、どう飛び方に影響するのか知りた」と興味津々だった。今森さんは「昆虫採集は日本

特有の文化。生き物の命を通して、失われつつある環境について知ってもらいたい」。黒木村長は「生き物を捕まえるとき、手を緩めると逃げてしまうが握り締めたら死んでしまう。直接触れ合う中で命を感じてほしい」と話していた。

からは、アメリカカブヨウと毛

る同団体。森代表は「ことし